

授業科目名（必修）	建築設計製図Ⅱ		担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年		開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	162 時間	
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>1) 鉄筋コンクリート造（ラーメン構造）の基本的な図面が描ける。 2) 鉄筋コンクリート造（壁式構造）の基本的な図面が描ける。 3) 鉄骨造の基本的な図面が描ける。</p> <p>※ 建築は構造物により空間を作り上げていく作業である。従って図面を描くに当たっては、常に建築を立体的に思考しながら描いていく力が要求される。</p>					
<p>< 授業内容 ></p> <p>(1) 鉄筋コンクリート造（ラーメン構造・壁式構造）及び鉄骨造の基本的な図面（平面図・断面図・立面図・矩計図・詳細図・仕上表）のトレース 2) 敷地や必要諸室などが設定された課題による、鉄筋コンクリート造（ラーメン構造・壁式構造）及び鉄骨造の設計製図及び設計演習（平面図・断面図・立面図・各伏図・矩形図・詳細図・仕上表を作成）</p> <p>※ 課題を設定することにより、エスキスカやデザイン力および創作意欲を高め、建築を実践的かつ立体的にまとめる能力を育成する。</p>					
<p>< 評価方法 ></p> <p>1) 課題製図の作品実績を 80% で評価する。 2) 課題製作への取り組みの意欲および進捗状況や提出状況を 10% で評価する。 3) 授業態度や出席状況を 10% で評価する。</p>					
キーワード	トレース、エスキス、空間、架構、ラーメン、トラス、計画の要点				
教科書	「新しい建築の製図」（（株）学芸出版社）				
参考書	「建築設計資料集成」（丸善）「2級建築士試験設計製図テキスト」				
関連科目	建築計画ⅠⅡ、建築CAD設計演習ⅠⅡ、建築一般構造				
連絡事項	周囲の建築物や国内および海外の特徴ある建築物に対して、常に関心を持つことが大切である。				

授業科目名（必修）	建築C A D設計演習 II	担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年	開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	67 時間
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>1) 近年急速に普及しているBIM（本授業ではArchiCadを用いる）の概念やモデリング及び図面書き出し方法の学習を通じ、BIMを用いた図面一式（平面図・断面図・立面図・詳細図・仕上表）の作成技術を習得する。</p> <p>2) 従来の図面（平面図・断面図・立面図・詳細図・仕上表）に加え、レンダリング処理したCGを用いた図面のプレゼンテーション技術向上を図る。</p>				
<p>< 授業内容 ></p> <p>1) BIMを用いて鉄筋コンクリート造（ラーメン構造）のモデリング及びレンダリングを行い、図面一式（平面図・断面図・立面図・詳細図・仕上表）を作成する。</p> <p>2) BIMを用いて木造のモデリング及びレンダリングを行い、図面一式（平面図・断面図・立面図・詳細図・仕上表）を作成する。</p>				
<p>< 評価方法 ></p> <p>1) 課題の提出状況や内容、定期試験の結果を80%で評価する。</p> <p>2) 授業の態度や出席状況を20%で評価する。</p>				
キーワード	CAD、BIM、データ変換、データ送受信			
教科書	「ArchiCadではじめるBIM設計入門（企画設計編）」（エクスナレッジ）			
参考書	JW_CADマニュアル			
関連科目	建築設計製図ⅠⅡ、建築CAD設計演習Ⅱ			
連絡事項	定期試験は、中間試験および期末試験を実施し試験時間は50分とする。			

授業科目名（必修）	建築計画Ⅱ		担当教員の実務経験	有	無	
対象学科・学年	建築デザイン学科2年		開講時期	前期	後期	通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	54 時間		
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>1) ビルディングタイプ別に、建物を計画する場合の基本的留意点及び専門用語を学ぶ。</p> <p>2) 実際にそれぞれの建物の基本的な設計ができるようにする。</p> <p>3) 時代の推移とともに変遷する建築計画に柔軟に対応できる能力を培う。</p> <p>4) 建築の形式によって生活の様式が決定づけられるという建築設計の重要性を認識させる。</p> <p>5) ビルディングタイプ別に、エスキスにより基本設計したものをCADにより作図提出する。</p>						
<p>< 授業内容 ></p> <p>1) 集合住宅 書館 2) 図</p> <p>3) 学校</p> <p>4) 診療所・病院 (前期中間試験・前期末試験)</p> <p>5) ホテル・旅館</p> <p>6) 劇場・映画館</p> <p>7) 博物館・美術館 (後期中間試験・後期末試験)</p>						
<p>< 評価方法 ></p> <p>1) 定期考査による成績と課題で評価する。</p>						
キーワード	空間、エスキス、プランニング、動線、防災避難					
教科書	「図説 やさしい建築計画」(学芸出版社)、「建築設計資料集成」(丸善)					
参考書	「建築学大系」(彰国社)					
関連科目	建築設計製図ⅠⅡ、建築史					
連絡事項	前後期に中間試験および期末試験を実施する。試験時間は50分とする。 (配布資料の持込みについては不可とする)					

授業科目名（必修）	建築史		担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年		開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	40 時間	
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>1) 様々な建物に体现されている様式と技術を歴史の流れに沿って学び、建築とは何であるかを学習する。</p> <p>2) 各国、各時代の社会的・文化的背景に基づく建築様式や、技術の変遷発展の実相を考察し、現代の建築の立場を理解させる。</p> <p>3) 以上の理解に基づき、これからの建築に対する識見と激しい技術革新の時代における歴史との融和をどのように図るかを考察させる。</p>					
<p>< 授業内容 ></p> <p>1) 日本建築史 ・ 古代神社建築・古代寺院建築・平安・鎌倉時代の寺院建築・安土桃山・江戸時代の住宅建築</p> <p>2) 西洋建築史 ・ 古代ローマ建築・ロマネスク、ゴシック建築・ルネサンス、バロック建築・新古典、歴史主義建築</p> <p>3) 近代建築史 ・ 近代建築の発生事情とその後の経過・過去の様式からの離脱と近代建築様式の形式、主要建築家の具体的業績・世界における現代建築の状況一般</p>					
<p>< 評価方法 ></p> <p>1) 定期考査による成績を80%で評価する。</p> <p>2) 課題の提出状況や提出内容を20%で評価する。</p>					
キーワード	建築様式				
教科書	「図説 建築の歴史」 (学芸出版社)				
参考書					
関連科目	建築計画ⅠⅡ				
連絡事項	前後期に中間試験および期末試験を実施する。試験時間は50分とする。 (配布資料の持込みについては不可とする)				

授業科目名（必修）	建築設備		担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年		開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	54 時間	
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>建築設備のあり方や、種類、計画の進め方について、基礎知識の修得を目指す。</p>					
<p>< 授業内容 ></p> <p>1) 建築と建築設備 建築設 備の位置づけ、目的とシステム設備方式の概略、計画など大要の把握、耐震計画の概要など</p> <p>2) 設備原論 熱の流 れ、水、空気、電気の基礎知識などの概要把握</p> <p>3) 空気調和設備 空気線 図、空気調和負荷、湿り空気、冷房暖房、換気、排煙などの概要の把握</p> <p>4) 給排水衛生設備 給水、 給湯、排水、通気、衛生器具、ガス、汚水排水処理、消火設備などの概要の把握</p> <p>5) ゴミ処理施設 廃棄物</p>					
<p>< 評価方法 ></p> <p>1) 定期考査による成績を80%で評価する。</p> <p>2) 随時小テストを行い、これらの成績と課題の提出状況や提出内容を10%で評価する。</p> <p>3) 授業の態度や出席状況を10%で評価する。</p>					
キーワード	環境				
教科書	「図説 建築設備」 (学芸出版社)				
参考書	「図解 建築設備の知識」改訂2版 (オーム社)				
関連科目	建築計画ⅠⅡ、建築環境工学				
連絡事項	定期試験は、前後期に中間試験および期末試験を実施し試験時間は50分とする。 (配布資料や計算機の持込みについては、随時連絡する)				

授業科目名 (必修)	構造力学Ⅱ		担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年		開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	68 時間	
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>1) 応力計算の修得を基本とする。</p> <p>2) 断面の諸係数の算出と応用について理解する。</p> <p>3) 応力度やひずみ度の計算</p> <p>4) 座屈について</p> <p>5) 構造物の変形を理解し、ひずみの計算ができるようにする。</p> <p>6) 不静定構造物の応力計算ができるようにする。</p>					
<p>< 授業内容 ></p> <p>1) 1年時の復習 (50分×6コマ)</p> <p>2) 応力とひずみおよび部材の変形について(50分×9コマ)</p> <p>3) 断面の諸係数について(50分×15コマ)</p> <p>4) 建築に用いられる材料と材質および許容応力度について(50分×9コマ)</p> <p>5) 座屈について(50分×7コマ)</p> <p>6) たわみとたわみ角について (50分×12コマ) モールの定理と弾性曲線の式</p> <p>7) たわみ角法と固定モーメント法(50分×10コマ)</p>					
<p>< 評価方法 ></p> <p>1) 定期考査による成績を80%で評価する。</p> <p>2) 随時小テストを行い、これらの成績と課題の提出状況や提出内容を10%で評価する。</p> <p>3) 授業態度や出席状況を10%で評価する。</p>					
キーワード	応力、断面の諸係数、許容応力度、不静定ラーメン				
教科書	「図説 建築構造力学」(学芸出版社)				
参考書	「建築構造の力学Ⅰ」/森北出版				
関連科目	建築一般構造、建築構造設計				
連絡事項	定期試験は、前後期に中間試験および期末試験を実施し試験時間は50分とする。 (配布資料や計算機の持込みについては、随時連絡する)				

授業科目名(必修)	建築構造設計		担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年		開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	54 時間	
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>1) 構造体の力学的性質についての十分な理解と、建物全体についての構造設計法の掌握。</p> <p>2) 許容応力状態に対する部材と接合部を考慮し、安全性・経済性等各種の合理性を追求する。</p> <p>3) 具体的な説明と多くの例題を通して、基本的理解のみならず、応用力が得られることによる独習的内容消化。</p> <p>4) 部材の特質に応じた構造の方法と構造デザインの創造性を理解・習得する。</p>					
<p>< 授業内容 ></p> <p>1) 日本の構造設計の考え方</p> <p>2) 荷重の算定法 固定荷重・積載荷重・積雪荷重・風圧力・地震力</p> <p>3) 鉄筋コンクリート構造の設計 材料について、梁・柱・梁柱のせん断補強、床スラブ、地盤と基礎</p> <p>4) 鉄骨構造の設計 鋼材の性質、接合法、引張材、圧縮材、梁・柱・接合部</p> <p>5) 2次設計 層間変形角、剛性率、偏心率、保有水平耐力</p>					
<p>< 評価方法 ></p> <p>1) 定期考査による成績を80%で評価する。</p> <p>2) 随時小テストを行い、これらの成績と課題の提出状況や提出内容を10%で評価する。</p> <p>3) 授業態度や出席状況を10%で評価する。</p>					
キーワード	S I 単位、エネルギーの吸収・変形、許容応力度				
教科書	「図説 やさしい構造設計」(学芸出版社)				
参考書	「最新建築構造設計入門」新訂版(実教出版)				
関連科目	構造力学、建築材料、建築一般構造、建築施工				
連絡事項	定期試験は、前後期に中間試験および期末試験を実施し試験時間は50分とする。 (配布資料や計算機の持込みについては、随時連絡する)				

授業科目名（必修）	建築施工Ⅱ		担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年		開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	54 時間	
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>建築物を施工するための技術や周りの環境に関する配慮などが理解できる。</p> <p>1) 仮設工事を理解できる。</p> <p>2) 躯体工事を理解できる。</p> <p>3) 仕上げ工事を理解できる。</p> <p>4) 瑕疵について理解できる。</p> <p>5) 建物の維持管理について理解できる。</p>					
<p>< 授業内容 ></p> <p>1) 仮設工事 共通仮設工事、直接仮設工事</p> <p>2) 躯体工事 土工事、基礎地業工事、鉄筋コンクリート工事、鉄骨工事、木工事、ブロック工事</p> <p>3) 仕上げ工事 防水工事、屋根工事、左官・タイル・石工事、塗装工事、建具工事、内外装工事、他</p> <p>4) 設備工事 電気設備工事、機械設備工事、換気・空調設備工事、防災設備工事</p> <p>5) 施工機械</p>					
<p>< 評価方法 ></p> <p>1) 定期考査による成績を80%で評価する。</p> <p>2) 随時小テストを行い、これらの成績と課題の提出状況や提出内容を10%で評価する。</p> <p>3) 授業の態度や出席状況を10%で評価する。</p>					
キーワード	躯体工事、仕上げ工事、瑕疵				
教科書	「建築施工」（井上書院）				
参考書	建築工事共通仕様書（国土交通大臣官房官庁営繕部）				
関連科目	建築材料、建築一般構造				
連絡事項	定期試験は、前後期に中間試験および期末試験を実施し、試験時間は50分とする。（配布資料や計算機の持込みについては、随時連絡する）				

授業科目名（必修）	建築施工実習		担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年		開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	54 時間	
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>1) 実際に作業を体験して施工の流れや施工方法を理解する。 2) 材料の取り扱いや工具等を実際に使用し使い方を理解する。 3) 作業の工程や人数、作業方法などを考慮し、工程計画をたてて実際の工程と比較する。</p>					
<p>< 授業内容 ></p> <p>1) 改修箇所は4階壁の塗装、一部化粧合板張り 2) 作業実施箇所ごとにグループ分けを行い、リーダーを定めグループ内で作業における工程計画をたてさせる。 3) 各班施工箇所を実測し、材料の所要量等を計測させる。 4) 安全に注意しながら作業を実施する。</p>					
<p>< 評価方法 ></p> <p>各班ごとに施工計画を立てさせ、材料の所要量や工程計画が適切かを判断し評価する。30% 作業に際して積極的に作業に取り組んでいるか、また安全対策の実施が適切かを教員が観察し、評価する。 70%</p>					
キーワード	内装改修、塗装、化粧合板、工程計画、安全作業				
教科書	なし				
参考書	プリント配布				
関連科目	建築施工				
連絡事項					

授業科目名（必修）	建築法規Ⅱ		担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年		開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	53 時間	
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>1) 建築基準法の構成と内容を理解する事ができる。 2) 建築基準法の用語を理解できる。 3) 条文を理解し、適法に判断が出来る。 4) 条文を理解し、適法な建築計画が出来る。</p>					
<p>< 授業内容 ></p> <p>1) <input checked="" type="checkbox"/> 市計画区域等の建築制限 2) <input checked="" type="checkbox"/> 建築基準法のその他の規定 3) <input checked="" type="checkbox"/> 建築士法 4) <input checked="" type="checkbox"/> 市計画法 5) <input checked="" type="checkbox"/> ートビル法 6) <input checked="" type="checkbox"/> その他の建築関係法規 建設業法・宅建業法・消防法・民法</p>					
<p>< 評価方法 ></p> <p>1) 定期考査による成績を80%で評価する。 2) 随時小テストを行い、これらの成績と課題の提出状況や提出内容を10%で評価する。 3) 授業の態度や出席状況を10%で評価する。</p>					
キーワード	建築基準法、建築士法、都市計画法、消防法、建設業法				
教科書	「建築法規概論」（実教出版）、「建築関連法令集 法令編」（総合資格学院）				
参考書	「二級建築士試験合格セミナー建築法規」（オーム社）				
関連科目	建築計画ⅠⅡ、建築一般構造、建築構造設計				
連絡事項	定期試験は、前後期に中間試験および期末試験を実施し、試験時間は50分とする。（配布資料や計算機の持込みについては、随時連絡する）				

授業科目名（必修）	卒業設計		担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年		開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	81 時間	
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>1) 建築物の企画立案ができる。</p> <p>2) 建築的に意義のあるテーマを設定できる。</p> <p>3) テーマやコンセプトに即し形態化、空間化できる。</p> <p>4) プレゼン資料が作成し相手に説明できる。</p>					
<p>< 授業内容 ></p> <p>1) リサーチ</p> <p>2) 企画・立案</p> <p>3) エスキースによる検討</p> <p>4) 模型による検討</p> <p>5) 図面作成</p> <p>6) 完成模型製作</p> <p>7) プレゼンボード作成</p>					
<p>< 評価方法 ></p> <p>授業への参加状況（授業態度を含む、20%）、各提出物の評価（80%）を総合的に評価する。</p>					
キーワード	問題・課題設定、ダイアグラム、シーケンス				
教科書	なし				
参考書	「建築設計資料集成」 建築系雑誌				
関連科目	建築設計製図ⅠⅡ、建築計画ⅠⅡ				
連絡事項	完成した作品を建築展（3月上旬）にて展示する。				

授業科目名（必修）	建築実務		担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年		開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	106 時間	
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>1) 都市計画や建築意匠設計に関する基本知識について学びつつ、建築実務に即した知識や技術を習得する。</p>					
<p>< 授業内容 ></p> <p>1) 都市計画、都市デザインに関する基礎的事項 2) 建築意匠設に関する演習</p>					
<p>< 評価方法 ></p> <p>授業への参加状況（授業態度を含む、20%）、各提出物の評価（80%）を総合的に評価する。</p>					
キーワード	建築意匠、都市計画				
教科書	随時プリントを配布				
参考書	なし				
関連科目	建築設計製図ⅠⅡ、建築計画ⅠⅡ				
連絡事項	建築の実務に携わる講師による授業です。これまでの経験や現在進行中のプロジェクトに関する話も聞けます。				

授業科目名（必修）	一般教養	担当教員の実務経験	有	無
対象学科・学年	建築デザイン学科2年	開講時期	前期	後期 通年
授業形態	講義	実習	授業時間数(50分)	32 時間
<p>< 授業の達成目標 ></p> <p>1) 職業人に求められるスキルを理解し、基礎的な知識をもとに体現できるようになることを目標とする。</p>				
<p>< 授業内容 ></p> <p>1) 会社組織の仕組み、コンピテンシー、エンプロアビリティについて 2) 立ち居振る舞い、面接の流れについて 3) ビジネスでの言葉遣い、敬語の基本、接遇用語 4) 自己分析、履歴書の書き方、添え状・お礼状の書き方 5) 指示の受け方、報告・説明の仕方、注意の受け方、クレーム対応 6) ビジネス文書の取り扱い、郵便の基礎知識 7) 慶弔の知識、贈答・見舞いのマナー 8) 来客対応、電話対応</p>				
<p>< 評価方法 ></p> <p>1) 定期試験による成績を 80% で評価する。 2) 単元ごとの小テスト、提出物等を 10% で評価する。 3) 出席状況や授業態度を 10% で評価する。</p>				
キーワード	学生と社会人の違い、社会人基礎力			
教科書	随時プリントを配布			
参考書	なし			
関連科目				
連絡事項	定期試験については、原則、 前後期の中間試験：筆記試験を実施（試験時間は 50 分） 前後期の期末試験：実技試験を一人ずつ実施（試験時間は 5 分/人） 実施要項については随時連絡する。			